001622444

WPI Acc No: 1976-56868X/ 197630

High molecular matl. for dental use - contg. tartar decomposing enzyme

e.g. mutanase and e.g. epoxy resin

Patent Assignee: LION DENTIFRICE CO LTD (LIOY)
Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Week

JP 51067346 A 19760610

197630 B

JP 85003041 B 19850125

198508

Priority Applications (No Type Date): JP 74141253 A 19741209

Abstract (Basic): JP 51067346 A

A dental care mati. comprises a tartar decomposing enzyme e.g. dextranase, mutanase, and a high mol. basic mati. e.g. methyl methacrylate, cyanoacrylate, urethane resin. The mati. can be used as filling agent, coating agent, etc.



C

願

er fil 产品等级 数

特許厅長管

- 短 切の 名 シカコラガングが日本の子は
- ツ 若=ノミヤマテトマニ 种奈川県中枢二宮町山西 4 よ 7 番地 ライオン国政権交会社 二宮経

「【成分3名】」 特許出願人 ,可可可以 東京都公田区本所/丁目3 前 7 号



現れるおれば合果も工具に関する おはらかもは

颈 7PE± (8490) 志

透付徘徊の目珠

| (1) | 奶额砂·· | 1 | 페 |
|------|--------------|----------|----------------|
| (3) | <u> </u> | <u> </u> | - 遊 |
| (8) | 一包一一位 | ī | 垭 |
| 23 x | se et ili | 1 | 276 |

- 発現の名称 ・ 自科用商分子的
- ェ 特許的故の範囲

母科用部分子差材に、デキストラナーセン ムとナーゼ、海田摩潔等の超級分野際案を含 在せしめたととを幹数とする貿利用商分子材。

3. 路頭の幹細な配偶 .

本語関は資路の分離並に生成付着を抑制す る作用を有する資料用商品予切に関する。 、白也(白皮)は母の小鶏、硬筋等のように、 女物の政策が確保しやすく、自浄作用および 別塔のおとないにくい質所に好発する。 その 東部の子防対策として、盤の小器や姿群につ いては、メチルメメアクリレート、シアノア クリレート、グリシャルメラクリレート、ウ レォン、エポキンは野零の改分子はかりなる 牧巫剤をつめることが一些に行なわれている。 (19) 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 51-67346

43公開日 昭51. (1976) G.10

49-141253 ②)特願昭

昭49、(1974)/3. 四出願日

(全5頁)

審查請求 未請求 广内整理番号 7001 .39 6692 7107 47

48 6692 7.202

砂日本分類 25(1)A297

94 641 250)78

61) Int. Cl2

CO8K 5/00 COSL 33/12 A610 13/00 3/10 COOK

しかし上記坂挺剤は風作時に重合収録をおと し、また口路内の温度変化によつて膨吸収益 するため、雄盛技に茂いて職闘を生じやすく、 甜塩や敷垢等の餌蝕因子の促入をゆるして二 次凶強を生じやすい欠点がある。上記の斑分 子材は幽科分野に於いて似題剤以外にローケ インダ列、充塩剤、磁菌尿用材料、製剤充収 烈、整理効時に広く用いられるが、行れや歯 指の付券に対して無妨害であつたため上配久 点は一般大きくたる。

上紀以外の由歯予防対策としては、ガムや 協盟等に有効成分を配合して口路内に作用さ せたり、郊化ナトリウム等を関に致者すると とが行なわれているが、ガス符の場合は有効 成分は一凸色でせいぜい数十分しず効果を持 数し存ず、歯窩に於いては他氏分による有効 **皮分の失法等の関駆があつて配合に協動があ** り、主た静化ナトリウムの場合は母故によつ て辺出させられる立と、それぞれ欠点がるり、

結局、自然に起因する虫歯の子副を資足し得なかった。

本語明の目的は、長期間創設予防効果を死 抑し得る選乳用部分子材を提供するととにあ 2.

本発明は、上記目的を達成するものであつ て、歯科用码分子並材に曲部分解酵素を含む せしめたことを特数とする歯科用码分子材に 関するものである。

本発明に用いられる田場か深壁などは、故 垢の分解並びに主成付着を抑制する能力を有 する段素のことでもり、例えば、デキストラ ナーゼ、ムタナーゼ、海南豚家等が挙げられ ス。

本知明に用いられる毎料用部分子並付としては、メチルメタアタリレート、シアノアクリレート、グリセジルメタタリレート、ウレタン倒脂、エポキレ母脂等が代表例として挙げられる。

(9)

せる作業量を各々!単位としている。

図場分別降業を出済用高分子並対に配合するに当り、これと一起に、プロケア・セ、ア
しつ・セ、リンケー人等の酵素や、クロロへ
キシジン等の報密剤、エテルパラベン、プテ
ルペラベン等の助脳対を配合することに効果
的である。また、モノフルオロリン関ツ・ダ、
地化即一瞬級いはリン関ツ・ダのようを留契
物類剤を配合することもできる。

次に、本売時による資料用高分子材を用いて、ストレプトコッカス (ユータンス(Streptocoocus mutans)の自成及び収益形 次に関する気料について説明する。

(似件の何以)

50**ピーカーに、メチルメタタリレート(1205)、ジメチルバフトルイピン (2045)ボリメチルメカクリレート和津(417)を加え、よく独辞した。故が返明で監視に立つたとなるでデキストラナーゼ(22万単位/7)

(5)

作用 IN51-6734 6(2)

本務期における盟科用部分子財とは、爆整 剤、コーティング剤、充電剤、質問が協削、 世科用投資剤、強由尿用材料等の総称名であ る。

本元明の歯科用高分子はの特性は、個科用

方分子並材に出版分解路梁を配合したととを

特徴とするものであるが、その配合刺合は、

歯科用充分子材に対し、歯類分解磨梁を選問

005~200重量を、好きしくは、0~/20

登録を配合する。なむ、優場分解解索とし

ででキストラナーを用いる場合5000~/00

五甲位/4、人タナーを集集の場合500~/20万甲位/4、株歯路套の場合500~20万甲位/6のものを用いるのが合理的である。

なお、上記の単位は、デキストクナーゼの 場合はデキストクンを、またふりナーゼの場合は、ムタンを分がして/分間当り/ #4の選 元額を生産する砂溶量を、また溶函磁型の場合は、/分間当り図の商定を 000/減少さ

(4)

安級用的体としては、ストレブトロッカス ミュータンス、 DMS-52 体を用いた。 物域 はシュークロースような加えたトリプチケー スソイブロースを用いた。

〔突脉方趺〕

上配製法で作成した飲料(ディスタ)に 2 何の欠をおけ、 とめ一方にスチンレス超を避 して固定した。 次に他の一方の穴に密料用 ワイヤーを避し、 そのワイヤーをほぼ中央で二 つ折りにした。 これを演説水で洗滌後代験質

(a)

特別 前51-67346(3)

に招入し、上方に出たサイヤーを新り曲けて 以放客の口にひつむけ下に落ちないようにした。このように単位された試験管に一定量の 0K2-61税を接廻して、出来9まま、二融 化皮米5ま中ま7℃で持続し、関の血質をよ びとの質によって作られる関語機物質の付給 を観察した。

(突啟结果)

上配の胡袞特灰を次表に示す。

なお、次中上個性質の全官状態、3個性気 助質(ガラス)に対する菌の付着度、C 同性 ディスクに対する菌の付着度を示す。またと の表に設ける……一ちの配号は関の付着度を 示すもので、一188の付着なし、土1ほとんど なし、十1カずかにあり、++1あり、+++; かなりあり、を表わす。

(7)

酢取りが、溶解除患や付意阻止など、有効に 能き、配関の発生に超因する二次動性から質 を守るととができる。また、二次斜紋が助止 されるため、とれてより生じる概然対策の到 健脱落を防止できると共に、辞出した有効成 子がそのほかにとどまらず即の部分の関係于 別に倒くととも別符でをる。単にまた、協領 分游游淡在窗外子超过忆含玄世光稻台、作用 ・の縁起途がたかめられる効果も得られ、幽結 の付着並に汚れを抑制できて不快盛し解領さ れるため、特に入れ出の場合効果が期待でき る。投援分別砂索は街距に配合、結合せしめ られることによりその安定化の均加がみられ、 また、如脳などと違つて、雌葉を長期脳不安 定を状態にしておくことがなく、使用度的を で影響を安定な状態に保つておくととが可能 たととも長折といえる。

以上説明したよりに、本角明によれば解験 于防効果を育する優れた歯科用商分子材を担

| | | | | | _ | | | | | | | | |
|-----------------------|----|---|-----|-----|------|-----|----------|-----|------|----------|-----|------|--------------|
| プラーゼ ラナーゼ ピタ:04 | 旗工 | 1 | נ | •, | Œ | 3 | 6 | 7 | 5 | 9 | 10 | " | /2 |
| | A | # | 147 | +++ | -131 | ##- | +++ | +++ | +11- | ## | ## | 111 | +++ |
| 10% | B | - | - | - | | - | | _ | + | <u>+</u> | - | - | |
| | ٥ | _ | | - | _ | - | 1 | _ | ± | <u>±</u> | + | + | <u> ± </u> |
| | 4 | + | ++- | ++ | 111 | 411 | 471 | ## | +++ | ## | ## | +++ | +++ |
| 35 | В | _ | - | - | ı | - | | | ł | 1 | - | _ | _ |
| 1 | ø | _ | | - | - | - | - | - | _ | ± | + | + | 土 |
| | 4 | + | + | + | # | # | ## | # | # | 111 | -#7 | 411 | 474 |
| 15 | מ | = | - | | - | - | | | 1 | + | 土 | _ | |
| | C | - | - | - | 1 | + | + | + | + | + | + | + | + |
| | | + | + | ‡ | # | # | ## | # | + | # | ‡ | 411 | +++ |
| 25% | B | _ | - | ł | | | 1 | + | # | + | + | + | + |
| | O | | _ | | + | + | ŧ | # | # | # | ‡ | 11 | +++ |
| _ | Δ. | | ++ | + | ‡ | # | ‡ | # | ‡ | + + | # | +111 | ## |
| 015 | В | | 1 | - | 1 | _ | _ | - | - | + | + | +[| ± |
| | C | 1 | + | + | ‡ | + | ‡ | # | # | ## | # | ## | # |
| 파기 | A | | 44 | + | # | # | ‡ | ‡ | ## | # | Ŧ | +++ | #+ |
| - 4 | Д | _ | - | | - | | + | + | + | + | + | + | + |
| | а | | + | + | # | # | +11 | #1 | ## | ## | ##- | +++ | +++ |

上党から短郊されるように木苑明の作用効果は野宮に優勢で、高分子はの恋敬、塩塩後生じた原内に侵入する原盤因子(留紙)に、 物図より消出又は何脳に結合した石効成分(

煲することができる。

次に本発明の財政例を示す。

(突曲例1) レーラント

メナルメラクリレート

エリメテルメラクリレート

デキストラナーゼ(50万年位/ダ)

タロル・オンジンが重整

リ

ジオテルバラトルイピン

ベツイルバーオキシド

/

/000 (金型を)
(実施例を) レーラント
エキルンアノアクリレート となる
レ リ カ /0
プキストラナーセ(30万単位/9) ま
ジステルアニリン 45

(突的例名) コンポダウト レジン メテルメカクリレート よの ポリメテルメカタリレート 20

```
特明 昭51-67346(4)
                                                           1000 (11SE)
デャストラナーゼ(50万単位/7)
                                          (彩版網8)
グメチルハラ トルイジン
                                        メチルメタクリレート
ベンゾイルベ・オキシド
                                        ポリメテルメタクリレート
                   /040(致最多)
                                        デキストラナーゼ(ギロ石革位/タ)
  く斑似切る) シーラント
                                        帝国中帝(1万年位19)
4.ダー・ジフエニルメタンジインジアナート
                                        ジメチルハラトハイジン
デスモーヘシー 1200
                                        ベングイルベーメヤシド
デストラナーゼ(50万単位/タ)
                                                          1000(旅游)
                                         (夾起例7) 留即充環剤
                   /000 (BS(S)
                                        酢酸ヒュル
  (突舷倒 5)
           コンポジプト レジン
                                       エタノール・・・
グリシジャルタナリレート
                   40
                                       間段グリコール
メチルメタタリレート
                   15
                                       開始配因セメント
ポリメゲルメタクリレート
                   10
                                       据石膏
ガラスベウダー
                   $0
                                       ケヤストラナーゼ(4の万年以/タ)
デキストクサーゼ( PO石単位/9)
                                       リソチーム(1万単位/9)
モノフルオロリン族ソーダ
                    43
                                                         /000(銀霉素)
ジメゲルトもトルイジン
                                        代型人 弁理士
              <del>(1)</del>
                                                        狂 母(白孔)
削別以外の類別者
                                                           5年 1. 肾
 新 期 若:
                                        特許宁亞拉
神奈川県中和二宮町山西ドラフ会地
                                       森併の設示
         ライオン製肥料の会社 二名祭
                                         昭和4月年時野福昭141258号
神奈川島助牧市如非臣 2 6 8 - 4
                                     2 発明の名跡
                                         饲料用陷分子材
                                       想正をする突
中的出版人
                                         タイオン貿路株式会社
                                         取取都中央区人食用 # 丁目/普拉
                                         弁理士(6490) 政 安
                                         朝朝奉の「発明の殷知を説明」の短
                                    4 独正の内容
                                      (1) 段《页下办与图》行目、「上配の单位社、」
                                -244<del>-</del>
```

むいて、」を加入する。 ② 第4頁下から第3行目、「12列を「14列に 17年4年

/aì

L.S.# 392

Application of the patent

Dec. 9, 1974

To: Mr. Hideo Saito, Chief of the Patent Dept.

1. Name of invention: polymer material for dental use

2. Inventor: Ryo Ninomiya, Koji Shibuya, and 3 others

Lion Dental Co. Ltd, 457, Ninomiyamachi-Nishi, Nakagun, Kangawa, Japan

3. Applicant of the patent: Lion Dental Co. Ltd.

3-7, 1-chome, Honjo, Sumida-ku, Tokyo, Japan

Representative: Atsushi Kobayashi

4. Assigned Representative: Masatake Shiga, patent attorney

26-7, 4-chome, 4th Floor, Kyoei Bldg., Taito, Taito-ku, Tokyo, Japan

5. Lists of attached documents

- (1) detailed report 1
- (2) copy of application 1
- (3) a letter of attorney 1

Disclosed Report of Patent (Japan Patent Dept.)

Patent No.: S 51-67346 Disclosed date: June 10, 1976 Application No: S 49-141253

Application date: Dec. 9, 1974
Application of examination: pending

Detailed report

1. Name of invention Polymer material for dental use

2. Sphere of patent request

Polymer material for dental use which contains a plaque decomposing enzyme such as dextranase, mutanase, and a germ-dissolving enzyme in a polymer substrate for dental use.

3. Detailed explanation of the invention

This invention is concerning a polymer material for dental use which separates plaque and controls its production and attachment of the same.

Cavities occur in areas where food is left and self-cleaning and manual cleaning are difficult such as in small grooves in the teeth, etc. To prevent cavities, small holes or grooves in the teeth are generally sealed using a polymer material such as methyl methacrylate, cyano acrylate, glycidyl methacrylate, urethane, epoxy resin, etc.

However, these sealing agents undergo polymerization shrinkage during manufacturing. They are also expanded and shrunk due to temperature changes inside the mouth. Therefore, gaps are easily produced after filling. These gaps allow the entrance of factors such as bacteria or plaque, and it may cause secondary decay. These polymer materials are widely used as coating agents and fillers, materials for artificial gums, fillers between gaps, adhesives, etc., in addition to their use as sealing agents in the dental field. However, since it does not protect against attachment of soil or plaque, the above problems are even bigger.

Other cavity-preventing measures combine effective ingredients to gum or tooth paste for use inside the mouth or to apply sodium fluoride to the teeth, etc. However, when applied to the gums, the effective ingredient is a one time application and its effect does not last more than several 10's minutes at most. In the case of tooth paste, the efficacy of some ingredients is affected by other ingredients, and there are restrictions on the useful combinations. Sodium fluoride is discharged by saliva. Each of these methods has its own problems, and they cannot prevent cavities due to plaque.

The object of this invention is to offer a polymer material for dental use which can prevent tooth decay for a long period of time.

This invention attains the above object by using a polymer material for dental use which contains a plaque decomposing enzyme in the polymer substance.

This plaque decomposing enzyme is an enzyme which decomposes plaque and control generation and attachment of plaque. For example, there are dextranase, mutanase, germ-dissolving enzymes, etc.

Representative examples of the polymer substrate for dental use in this invention include methyl methacrylate, cyano acrylate, glycidyl methacrylate, urethane resin, and epoxy resin.

Polymer material for dental use in this invention is a generic term for a sealing agent, coating agent, filler, adhesive, or material for artificial gums, etc.

The main characteristic of the polymer material for dental use of this invention is that a plaque decomposing enzyme is combined in the polymer substrate for dental use. The plaque decomposing enzyme normally constitutes 0.05 to 20.0 wt. %, preferably 1.0 to 10.0 wt. % per polymer material for dental use. When dextranase is used as the plaque decomposing enzyme, it is reasonable to use one with 5,000 to 1 million unit/g; when mutanase is used, 1,000 to 200,000 unit/g; when germ-dissolving enzyme is used, 500 to 200,000 unit/g.

These units are defined as follows: in the case of dextranase, it is dextran; in the case of mutanase, it is mutane, and the amount of enzyme which reduces 1 mg of sugar in 1 minute is adopted as 1 unit. In the case of germ-dissolving enzymes, the amount of enzyme which reduces 0.001 of turbidity of germs per 1 minute is adopted as 1 unit.

When adding the plaque decomposing enzyme to the polymer substrate for dental use, it is effective to combine enzymes such as protease, amylase, lysozyme; or germicides such as chlorohexidine; preservatives such as ethyl parabene or butyl parabene. It is also possible to add a tooth quality reinforcing agent such as soda monofluorophosphate, tin fluoride, or soda phosphate.

Next, experiments concerning production of streptococcus mutans and formation of plaque with use of polymer material for dental use of this invention are going to be explained.

(Preparation of sample)

Methyl methacrylate (120 g), dimethyl para toluidine (0.06 g), polymethyl methacrylate powder (4.8 g) were added to a 50 ml beaker and stirred well. When the liquid became transparent and tacky, dextranase (220,000 unit/g) was added so that they would be 0.1, 0.5, 1.0, 5.0, 10.0 % final weight %. At last, benzoyl peroxide (0.06 g) was added, and they were stirred well. This was put into a polyethylene mold with 14 mm diameter and 10 mm height. After it was left for 24 hours, it was cut into 0.8 mm thickness. Then it was finished with #800 polishing paper, and it was used as a sample. Disks made by similar methods without adding dextranase were used as a control.

The bacillus root for the experiment was streptococcus mutans, OMZ-61 rot. The cultivation field was 5% trypsicase soy broth in a shoe cloth.

(Experimental method)

Two holes were made in the samples (disks) manufactured by the above method. Stainless steel wire was put through one of these and was fixed. Next, wire for dental use was put through the other hole, and this wire was held at almost its center. This was washed with distilled water, and it was inserted into a test tube. The wire was bent and hung on the test tube so that it would not fall down. A fixed amount of OMZ-61 root was inoculated to the test tube which was prepared as described above, It was cultivated in 95 % nitrogen and 5 % carbon dioxide at 37°C. Growth of the bacillus and attachment of plaque like substance made by this bacillus were observed.

(Results of experiment)

The results of these observations are shown in the table below.

In the table, column A indicates the growing condition of the bacillus; B indicates the degree of attachment of the bacillus to the test tube (glass); column C indicates the degree of attachment of the bacillus to the disk. Symbols such as -, \pm indicate the degree of attachment of the bacillus. -: no attachment of bacillus; \pm : hardly any attachment; +: slightly attached, ++: attached, +++: considerably attached.

| Dextranase amount | days | ı | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | В | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------------------|------|----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 10% | Α | ++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ |
| | В | - | - | - | T - | - | - | - | ± | ± | - | - | |
| | C | - | - | - | - | - | - | - | ± | ± | ± | ± | ± |
| 5% | A | + | ++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ | 1++ | +++ | +++ | +++ |
| | В | • | T - | - | - | • | - | - | - | - | - | - | - |
| | C | - | T - | - | • | - | - | - | - | ± | ± | ± | ± |
| 1% | A | + | + | + | ++ | ++ | +++ | +++ | +++ | ++ | +++ | +++ | +++ |
| | В | - | - | - | - | - | - | - | - | ± | ± | - | - |
| | С | - | - | - | - | + | + | + | + | + | + | + | + |
| 0.5% | A | + | + | ++ | +++ | ++ | +4+ | +++ | ++ | +++ | 4-1- | +++ | +++ |
| | В | - | 1- | - | - | - | - | # | ± | + | + | + | + |
| | C | - | - | - | + | + | + | ++ | ++ | ++ | ++ | ++ | +++ |

| 0.1% | A | - | 1+ | + | 1++ | ++ | 1++ | 1-1 | ++ | +++ | +++ | +++ | +++ |
|---------|---|---|----|----|-------|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | В | - | |]- | - | - | - | - | - | + | + | + | + |
| L | C | - | + | + | ++. | ++ | ++ | ++ | ++ | +++ | +++ | 444 | +++ |
| control | A | - | ++ | 4 | mark. | ++ | ++ | ++ | +++ | +++ | +++ | +++ | +++ |
| | В | - | - | T- | 7 | - | + | + | + | 4- | + | + | + |
| | С | | 4- | + | ++ | ++ | 1+++ | +++ | 111 | +++ | +++ | +++ | +++ |

As understood from the above table, the effect of this invention is remarkable. The effective ingredient (enzyme) which is either melted out from the resin or bonded to the resin is effective in removing, dissolving, or blocking attachment of decay factors (plaque) which enter the gaps created when filling or sealing the tooth using polymer materials. It can protect the teeth from secondary decay which is due to these gaps. Since secondary decay is prevented, it also prevents peeling and falling of the sealing material which is caused by this decay. At the same time, it is expected that the effective ingredient which is melted out will not stay in the same area and will work for prevention of decay in other areas. Furthermore, when a plaque decomposing enzyme is contained in the polymer substrate, the effect lasts longer. Attachment of plaque and soil can be controlled, and discomfort can be prevented. Therefore, this invention is especially effective for false teeth. By combining and bonding plaque decomposing enzyme with the resin, its stability is especially increased. Unlike toothpaste, it will not make enzymes unstable for long period of time. Another merit is that the enzyme is stable until use.

As explained above, this invention offers an excellent polymer material for dental use which prevents plaque.

Next, examples of practice of this invention are going to be explained.

(Example of practice 1) sealant

| methyl methacrylate | 62 |
|-----------------------------|------------------|
| polymethyl methacrylate | 30 |
| dextranase (500,000 unit/g) | 5 |
| chlorhexizine hydrochloride | 1 |
| dimethyl para toluidine | 1 |
| benzoyl peroxide | <u>1</u> |
| | 100.0 (weight %) |

(Example of practice 2) sealant

| ethyl cyano acrylate | 84.5 |
|-----------------------------|------------------|
| silica | 10 |
| dextranase (500,000 unit/g) | 5 |
| dimethyl aniline | <u>0.5</u> |
| | 100.0 (weight %) |

(Example of practice 3) composite resin

```
50
methyl methacrylate
                                            20
polymethyl methacrylate
                                            26.5
glass powder
dextranase (500,000 unit/g)
                                            2
dimethyl para toluidine
                                            0.5
benzoyl peroxide
                                            100.0 (weight %)
(Example of practice 4) sealant
                                            76
4,4-diphenyl methane diisocyanate
                                            20
desmohen - 1200
dextranase (500,000 unit/g)
                                            3
tin octanate
                                            1
                                            100.0 (weight %)
(Example of practice 5) composite resin
glycidyl methacrylate
                                           20
methyl methacrylate
                                           15
polymethyl methacrylate
                                           10
glass powder
                                           50
dextranase (400,000 unit/g)
                                           3.5
monofluoro soda phosphate
                                           0.5
dimethyl para toluidine
                                           0.5
benzoyl peroxide
                                           0.5
                                           100.0 (weight %)
(Example of practice 6) sealant
methyl methacrylate
                                           62
                                           30
polymethyl methacrylate
dextranase (400,000 unit/g)
                                           4
dimethyl para toluidine
                                           1
benzoyl peroxide
                                           100.0 (weight %)
(Example of practice 7) filler for gap
                                           20
vinyl acetate
                                           5
ethano1
glycol acetate
                                           5
zinc sulfate cement
                                           20
baked gypsum
                                           45
dextranase (400,000 unit/g)
                                           3
lysozyme (10,000 unit/g)
```

100.0 (weight %)

Assigned representative: Masatake Shiga, patent attorney

Inventors in addition to the above
 Masatoshi Igarashi
 Lion Dental Co. Ltd., Ninomiya Residence, 457, Yamanishi, Nimomiyamachi, Naka-gun, Kanagawa, Japan

Isao Minemoto 283-4, Kameino, Fujisawa-shi, Kanagawa, Japan

Satoshi Hayashi 5-13-15, Kotobukicho, Odawara, Kangawa, Japan

Amendment (voluntary) Jan. 16, 1975

To: Chief of the patent dept.

- 1. Indication of the event No. 141258 in 1974
- 2. Name of invention Polymer material for dental use
- 3. Party which makes amendment Lion Dental Co. Ltd.
- Assigned representative
 Masatake Shiga, patent attorney
 Yaesu, Chuo-ku, Tokyo, Japan
- 5. Object of amendment "Detailed explanation of invention" in detailed report
- 6. Content of amendment
 (1) After "These units are defined as follows": on page 2, insert "for a phosphoric acid buffer, PHZ0 3.5 g"
 (very hard to read the original)
- (2) Correct "1 mg" on page 2 to "1 μg".